

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	NICOLANDほいくえん東村山
施設所在地	東京都東村山市美住町1-20-1
法人名	(株)モアスマイルプロジェクト

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『音』 ふれあい遊びから身近な音や音楽に親しむ（0歳児） 歌絵本を通して音や音楽に触れよう（1歳児） 生活の中で色々な音探しをしよう（2歳児）
--

<テーマの設定理由>

NICOLANDほいくえん東村山では開園当初からリトミックを中心に音楽に触れる活動を多く取り入れています。絶対音感や楽器の演奏技術を身につけることが目的ではなく、保育という生活の場を通じて音に興味を持ち、音楽やリズムの中から自らの興味のあるものを発見し喜べるような活動を継続して行いたいと考え、今年度『音』というテーマを設定しました。

(0歳児)

普段からふれあい遊びを多く保育に取り入れており、ふれあい遊びからわらべうたや音に興味を持つようになってきました。また、身近な物を「握る」「振る」「叩く」ことで音が聞こえると繰り返し遊ぶ様子が見られているので、この探求活動を通してより多くの音や音楽に触れ、音に興味を持ち表現していけるようになってきました。

(1歳児)

生活の中で積極的に歌絵本を手に取り、音楽に合わせてページをめくったり歌を口ずさんだり体を動かしている様子が多く見られます。歌絵本から音の持つ心地よさを感じ、歌う事ができるようになり、それをリトミックを通して簡単な楽器や身体の動きで表現できるようになると考えました。

(2歳児)

生活の中にある色々な音に興味を持ち、探したり表現する探求活動を進めていきたいと考えました。

楽器をはじめ、音やリズムを奏でる事に興味があるので、生活の中の音を表現することから簡単な演奏に発展していくのではと考えています。また、現在乗り物全般に興味を持っている子どもが多く、普段から乗り物に関する歌を歌ったり音を模倣して身体表現しているため、そこからより探求を深めていけたらと考えました。

2. 活動スケジュール

・音コーナーで色々な音や音楽に自由に触れよう ・雨で遊ぶ（雨の音を聞いたり、雨の日散歩で音探しをしてみよう） ・わらべうた遊びからどんぐりマラカスを作って演奏してみよう ・絵本の世界をリトミックで表現してみよう ・生活の中の音探しをしてみよう ・本物の乗り物の音探しをしてみよう
--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・音コーナー（棚・防音マット・太鼓・スズ・音の出る玩具・リトミックスカーフ・歌絵本）を常設し、普段の遊びの中で自由に音や音楽に触れられる環境を作った。 ・0歳児活動では保育の中でわらべうたや触れ合い遊びをする機会を多くしたり、わらべうたの絵本を用意したりした。手作り楽器を作成できるような材料を準備し、できた楽器で演奏する機会を多く持った。 ・1歳児活動では歌絵本を多く用意し、普段の保育の中でリトミック等音楽につながる活動を多く取り入れた。音楽に合わせて自由に楽器を使用できる環境設定を行なった。 ・2歳児活動では雨や風等の自然の音を感じ、観察できるように保育園デッキにタープを設置し、落ちてくる雨の音を聞いたり、ビンやガラスを用意して音の違いを感じられるようにした。散歩等の園外活動で多くの音に触れられるような環境設定を行なった。本物のバスや電車に乗って音を感じてみたいという子どもたちの言葉から、音探しの園外保育を行なった。
--

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・音コーナーでは子どもたちが自由に探求活動を行なった。歌絵本を開いて歌を歌ったり、楽器を演奏したりした。音のする玩具を使用して音あてゲームをしたり、楽器作りを行なったりした。 ・0歳児活動ではピアノの演奏に合わせて楽器を演奏したり、絵本の読み聞かせから触れ合い遊びを行なった。子どもたちが一番興味を持ったわらべうた「どんぐりころちゃん」を中心に活動を展開し、どんぐりを使った自作のマラカスで音を楽しんだ。 ・1歳児活動では子どもたちが音コーナーで興味を持った何種類かの歌絵本を題材に、リトミック講師に指導してもらいながらリトミック活動を行なった。フープやスカーフを色々なものに見立て音を体で表現したり、楽器を使って表現したりした。 ・2歳児活動では「雨で遊ぶ」の活動から生活の中の音探し、乗り物の音探しに探求活動が発展し、最後は実際に乗り物に乗って、音を体験してみる活動を行なった。
--

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・音コーナーは初めは戸惑う様子が見られたが、保育士と一緒に遊ぶことを繰り返していくうちに、自分たちで新しい遊びを考え始めた。ただ楽器を慣らしたり絵本を読みながら歌うだけでなく「先生、この曲ピアノで弾いて」と楽器の役割を決めてピアノに合わせて合奏することを楽しんだり、保育士になりきって小さい子どもとわらべうたを楽しんだり、トイレットペーパーの芯や箱等で自作の楽器を作り遊ぶ様子が見られた。

・0歳児活動では、保育者がわらべうたを歌うと一緒に手をたたいたり、「どんぐりころちゃん」の「ぼーん」というフレーズの響きを好み、両手を上げて音を表現していた。その後散歩で拾ったどんぐりをみせながら「ころちゃんみたいだね」というと少し不思議そうな表情はしていたが指先でどんぐりに触れニコニコしながら感触を確かめたり、拾ったどんぐりを容器にいれると大喜びで音を鳴らしていた。「どんぐりころちゃん」の歌を歌うと子どもたち自ら歌に合わせてマラカスを振って音を鳴らした。

・1歳児活動ではスカーフで海の音を表現したり、ピアノに合わせて動物の動きを真似したりと多くの表現活動に取り組んだ。保育室にフープを出すと「線路は続くよ」の歌を自分たちから歌い出し、電車を表現していた。それに合わせて保育士がピアノを弾くと「先生ピアノ早く弾いて。電車は早いから走りたいの」とか「連結して動こうよ」などとアイデアがたくさん湧いてきたようだった。

・2歳児活動は子どもたちの声から探求がたくさんつながった。生活の音探しをしていると、子どもたちが特に興味を持ったのが乗り物の音だった。「電車は走る速さで音が違うね」「自分たちが電車を作りたい」「踏切の音を近くで聞いてみたい」「飛行機って種類で音が違うんだよ」「電車やバスに乗って音探しをしたい」など多くの気づきと声を聞かれ、子どもたちと共に活動を考え探索を進めた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

(0歳児・ひよこ組)

ふれあい遊びを通し、保育者と愛着を深めながら歌や音に触れることができた。音に合わせて揺れたり、手を叩いたり音の表現も様々だった。身近な素材を音遊びに取り入れると次第に楽器にも興味を持ち、保育者や他児が音を鳴らすと真似をして意欲的に楽器遊びに参加していた。探索を続けていくと自ら楽器を取りにいき遊びに取り入れる姿も多く見られた。

リトミックや音遊びでは、ピアノの音を聞き分け止まる・歩く等全身で音を表現していた。

戸外遊びでは、落ち葉や木の実(どんぐり等)を見つけ転がしたり落とすことで、音が聞こえる事を知り、拾うだけでなく音を聞く遊びに展開していく姿が見られ、落ち葉の上を歩くと音がすると何度も繰り返し歩き、音を楽しんでいるようだった。指先を使ってポットン遊びができるようになると、容器に木の実を入れ遊ぶ姿が見られるようになったため、楽器作りに展開した。

1年を通して、遊びの中から音に気付き、楽器作りに展開したことで、音への興味が深まり、友達や保育者と一緒に奏でることを楽しむようになった。人との関わりから始まり、楽器を含めた物へ興味を持ち、自ら音などに気づく姿に成長を感じた。子どもが主体的に活動し、発見することが改めて大切だという事に気付いた。

(1歳児・りす組)

様々な活動を通して子ども達と一緒に音に触れることが出来た。楽器やピアノ、歌絵本など興味を持って子どもたち自身も活動を楽しんでいたように感じる。

はじめは保育士が促すことが多かったが、探索を続けていくと本当に子どもが興味を持って探求したいことが見えてきた。自分たちで太鼓や鈴といったふれやすい楽器を曲に合わせて演奏することで、子どもたちが最後まで取り組めたという達成感も感じられたようだった。また子どもたち自らスカーフやフープを遊びに取り入れ、音楽を表現するようになった様子を見て、子どもたちの大きな成長を感じた。

毎月の月の歌や簡単な手遊びうたも普段から取り入れているが、今後も引き続き子どもがくちずさむような曲を選んで、身近に音楽や音を感じられるように環境作りや楽器の場所など、工夫していきたい。

(2歳児・うさぎ組)

日常に音があふれていることを感じる事が出来た。何気なく過ごしている中にもさまざまな種類の音が隠れ、混ざり合っていたこと、注意を向けなくても今まで気付かないでいた音なども気づくことが出来た。

緊急車両やドクターヘリなどが思ったよりも頻繁に動いている音に気が付いたり、戸外に出かける時にも周りの音に注意して歩くことが身についていた。

音を意識するようになってからは散歩中や食事時の静かな時間にも子どもたちのつぶやきや、言葉で伝えてくれることが増えた。

音を鳴らす楽しさや、音を聞く楽しさを感じ、興味を持って活動に参加することが出来た。

遠足の予定を子どもが興味を持った乗り物の音で行えたことが良かったと思う。乗り物に乗るときのルールや、下調べでも興味を持ち意欲的に参加することが出来た。